

2月園だより

発行日 平成29年1月31日

発行者 園長 島村正明

流石に大寒とともに寒さ厳しい日が続きましたが、季節の節目と言われる節分を前にして少しは寒さも和らidedきたようです。1年前、鬼が大暴れをして、こども達が職員の後ろに競って隠れ、大泣きしたのを思い出します。今年の鬼はこども達がするようです。

また、本園の教育・保育も1年の締めを迎え、その成果の一部を発表する「活動参観」を2月18日(土)に実施します。ご多用中のこととは存じますが、お越しいただきお子さんの様子や周りのこども達の様子、そして、園の雰囲気を実参観していただければ幸いです。

さて、今回は、ある中学校の校長先生に伺った話を基に子育てについて記したいと思います。

実は、合志市内に勤めるようになり近隣の小中学校や教育委員会を時々訪ね校長先生や教育長先生と色々な分野の情報交換をしています。その中で、先日、ある中学校を訪問した折りに校長先生から参考になる話を伺いましたのでその内容を紹介したいと思います。

この校長先生は、教諭時代、ある部活動の指導に熱心に関わり、いわゆる強い部をつくりあげた方で、スポーツ界では名の知れ渡った先生です。そこで、バリバリの中学校タイプの先生かと思いきや何と幼児教育にも関心を持っておられ、実際に幼児教育に関わる私と意気投合したところでした。

子育ては親だけでは駄目～子育てに他人を巻き込むべき

中学生になると思春期に入り、自己の内面で葛藤が起こり、それを素直に表現できず、時にストレートに表現するようになる。この思春期特有の行動は、人間の成長の過程であり、大人になった誰しも記憶に残っているはずだ。

<思春期の特徴>

①それまでの心の発達過程の見直し、修正

今までの発達過程を見直し、これからのための修正をする。

例えば、幼い頃より親の言うことを何でも聞く良い子が、指示なしに一人で生きていくための自律性を獲得するため、それまでの「良い子」とは真逆の行動をとることがある。

②親から離れたたいという欲求の高まり

その分、友だち関係に寄り添う。

しかし、思春期を過ぎれば「自分は自分、他人は他人」と割り切れるようになる。

③心の両面性

直ぐに怒り、暴言を投げ掛けるのに、その後にベタベタと甘えてくる。

中学校時代は、思春期真っ只中、それまでにない行動が見受けられます。そして、その原因を追い求めていくと個々の心の中心に届きます。人の心は、当然、幼児期から少しずつ形づくられ、小学校の時点では、気付かなくても自我が目覚める中学生になると内に秘めたものが一気に現れて来るのでしょう。

そこで、その先生が言われるには、心の土台が出来上がる時期の教育、つまり、幼児教育は大変重要である。そして、強く言われたのが、「子育てには他人の関わりが絶対に必要！」とのこと。

当然、親が自分の子どもに愛情を注ぐのは当然である。しかし、親だけで子育てに当たるのは心配である。親の考えだけで子どもが育ち、親だけが子どもの模範となる。社会的な適応という点で心配である。

出来れば、祖父母に関わってもらいたい。祖父母は、自分の子育ての長短を記憶しており、孫育てにおいてその記憶が生かされる。

しかし、他人に子育てに関わってもらうことが最も有効である。他人には、無責任な一面があるかも知れないが、一般的にはあくまでも第三者的な立場から客観的に子どもを捉え、客観的な関わりが期待できる。

幼児教育の専門家ではありませんが、先生が言われた・・・「他人の関わりが絶対に必要！」・・・私自身、なるほどと思いました。



2月ほけんだより

29/1/31 発行

合志こども園

新しい年を迎え、早々と1月が過ぎていきました。それぞれの学年で楽しんだお正月遊びも回を重ねる度に上達し、「ここまで出来るようになったよ」と笑顔いっぱい話してくれます。また、伝承遊び会では、祖父母の方のご協力のお陰で心温まる経験が出来ました。次はもっとできるようになりたい！という子どもたちの意欲が感じられたひと時でした。

『1月はいく・2月は逃げる・3月は去る』のことわざ通り、あっと言う間の1月でした。月末には、とうとうインフルエンザも流行し始めています。風邪のウィルスもことわざのようにさーっと去ってくれるといいのですが。予防には、うがい手洗いが欠かせません。どの様にうがいをすれば効果的なのかを子どもたちと確認しながら取り組んでいます。また、空気の入替がなぜ必要なのかを考えると、子ども同士でも「寒いけど空気を入れ替えたほうが、風邪にならないんだよね」と話しています。行動の意味を一緒に考え、確認し、取り組む事が「生きる力」に繋がっています。ご家庭でも親子で確認しながら、取り組んでみてください。

体力の低下もウィルスが入り込みやすくなります。しっかり栄養を取り、しっかり体を動かし、しっかり休息することにも心掛けて、風邪を寄せ付けない体づくりをお願いいたします。みんなで寒い冬を元気に乗り切りましょう。

気をつけよう！ 冬の感染症

寒く乾燥する冬は、ウィルスが元気になる季節です。冬の感染症は、呼吸器に症状が出やすいものが多いのが特徴です。さらに、冬から春先には、ロタウィルスやノロウィルスによる感染性胃腸炎も流行します。十分に注意し、冬を元気に乗り切りましょう。

★RS ウィルス感染症

原因：RS ウィルスの感染によって起こる集団流行しやすい感染症。特に1歳未満の乳児がかかりやすく、気管支炎や肺炎を起こす。

症状：鼻水や咳の症状から始まり、呼吸時にヒューヒューゼーゼーといった音が出る。重症化すると危険な状態になることもある。

対応：今のところ根本的な薬はない。早めに受診し、こじらせないようにすることが第一である。



★気管支炎

原因：インフルエンザや風邪の炎症が、喉から、気管支にまで進んだ症状。

症状：熱が高くなり、たんがからんでゼロゼロという湿った咳が長く続く。長引くと症状が重くなり、呼吸困難に陥ることもある。

対応：水分を十分に与え、室内の乾燥を防ぐ。また、咳はたんを体外に出すために大切な反応なので、むやみに市販の咳止めを使うのはさける。



★感染性胃腸炎

原因：ウィルス性の感染によるもの。冬はノロウィルス・ロタウィルスが代表的。主に経口、飛沫感染だが、ノロウィルスの場合は食品から感染することもある。生後半年～2歳くらいの子が多くかかる。

症状：激しいおう吐の症状が突然現れ、下痢がそれに続き、発熱もある。ロタウィルスに感染の場合は、便が白っぽくなることもある。

対応：激しい下痢が続くので、イオン飲料や湯冷ましなどで十分に水分補給をし、脱水症状にならないようにする。症状は2～3日から一週間程度でおさまる。

★溶連菌感染症

原因：A群溶血連鎖球菌という細菌が原因となる病気の総称。飛沫で感染。

症状：高熱が出ることもあり、のどのはれ、おう吐、頭痛などの症状が現れる。筋肉痛や中耳炎をおこすこともある。その後全身に小さな発疹が出たり、舌に白いこけ状のものがつき、3日くらいすると、赤くブツブツしてくる(イチゴ舌)。発疹や舌のブツブツがでず、のどが痛いだけの時もある。

対応：抗生物質で治療する。症状が治まったからといって独断で薬をやめたりしない事。